

真に変革を実現し、儲け続ける組織を創る

TOCアカデミー

TOCを体系的に理解し、自社に適用できるようになるための知識付与
自社の現状を理解し、儲け続ける未来を描き、実践するためのシナリオ作成

TOC先駆者20年の英知を6日間に凝縮

何を変えるか?

視点を手に入れ
自社を理解する

何に変えるか?

手法を学び
自社の未来を描く

どうやって変えるか?

継続的改善の
実践プランを創る

村上のコンサル実績&渡辺の社内実践経験

数百の
ケースが
裏付ける

継続的改善を
実現する手法を学ぶ、
貴社の将来を担う
部課長向け
実践講座

執行役員副社長
兼 CCSO
渡辺 薫

代表取締役
村上 悟

 ゴール・システム・コンサルティング株式会社

TOCを活用し、所属企業を「儲け続ける」組織に変革したい方のための

TOCアカデミー

ゴール・システム・コンサルティング 20年の実践の集大成として。

「勉強」ではなく、真に「結果を出す」ために実践したい
ビジネスパーソンに寄り添う「TOC 徹底活用」プログラム

100社以上の実績

日本での100社以上のコンサルティング実績と、グローバルな事例研究に基づき、個別の手法の集まりではない、TOCの「知識体系」と「制約の徹底活用」の全貌をコンパクトにお伝えします。

正しい解説と実践方法

TOCで成果を出すための前提条件を正しく解説します。「自社が儲け続ける」というゴールを達成するために、必要とされる全ての手法を使いこなし、成果を挙げ続けている企業の実践方法を学びます。

講義&演習&実践

各回の講義&演習で個別手法を理解した上で、組織変革のための統合的なアクションプランを作成することにより、TOCの実践につなげるプログラム構成です。

1on1サポート

アクションプラン作成のために、受講期間中に各社2回の1on1サポートを実施します。TOCの知識のみならず、日本の製造業での豊富な実践経験を有するトップコンサルタントがサポートします。

TOC(制約理論)は万能な手法ではない。

しかし、適用条件を見極め、「制約を徹底的に活用」することができれば、あらゆる企業を儲け続ける組織に変革することができる。

世界で1,000万人以上が読んだ小説『ザ・ゴール』は、著名なビジネスパーソンが参考書籍として挙げることも多い名著です。そして、この小説から生まれたのが、全体最適のマネジメント理論TOC(制約理論)です。

しかし、小説のような華々しい成果のイメージが独り歩きし、「ザ・ゴールのような成果を期待してTOCに取り組んでみたが、自社はそんなに単純では無かった」といった落胆につながるケースも多数あります。

ゴール・システム・コンサルティングは、日本企業100社以上での20年に渡るコンサルティングを通し、成果につながるTOC活用の実践知を積み上げてきました。

TOCは何にでもすぐに効くような魔法ではありません。しかし、現場環境をよく観て、適用条件を見極めたうえで、原理原則に忠実に実践することで、企業を継続的な改善と成長に導くことができると確信しています。

TOCアカデミーは、TOCが掲げるスループットの最大化に向けて、組織を変革していくことを真に実現したいと考えている日本企業の現場リーダー～マネジメント層の方を対象に、TOC知識の体系的かつ実践的な知識を付与します。

さらに、講師による1on1のサポートにより、TOCを自社で活用するためのロードマップを作成し、制約の徹底活用の実現へと導く半年間のプログラムです。

参加をお勧めする企業

- 短期的な成果だけではなく、成果を積み重ね、長期的に大きな**成果につなげる覚悟のある企業**
- 組織変革を推進する**人材を増やしたい企業**
- DBR や CCPM といった個別手法を学ぶのではなく、TOCを構造的に理解し、**実務に活用したい企業**
- TOCだけではなく必要な知見・技術を積極的に取り入れ、自社を**継続的改善に導きたい企業**
- 自社で変革を始めるための実効性の高い**アクションプランを作成したい企業**

開講にあたって

私たちは職業人生の過半をTOCとともに過ごしてきました。村上は小説『ザ・ゴール』日本語訳が刊行される前からTOCの草分けとして、25年で100社以上の日本企業を支援し、渡辺は日立グループで15年に渡り5万人以上にTOCを指導し、500を超える成果事例を生み出してきました。コンサルタントとして企業の外から、実践者として企業の中からという違いはあれ、人生を賭けてTOCを実践してきたと言っても過言ではありません。

しかし今日、私たちはTOCの現状に忸怩たる想いを抱えています。それは、TOCの本来の力が十分に発揮されているとは到底言えず、TOCに魅力を感じ、活用しようとしている多くの方々が、様々な困難に対峙しているからです。

私たちはこの問題について議論を重ね、日本でTOCが広まっていない原因は、私たちTOCを普及する者たちが、TOCの「一見簡単そうだが、実は奥深い“難しさ”」から目を背け、TOCのシンプルさをあまりに強調してきたことに反省しています。

シンプルに見えて、TOCを企業組織に適用し、成果を挙げることは簡単ではありません。TOCを自らの組織で使う上で前提条件を明らかにすること、そして、それに基づいた具体的な実行プランを練り上げることが必須なのです。

このステップを人が理解できるように、分かりやすく教えることは尚更難しいことです。私たちは、この難しさを超え、TOCで日本企業をより良くしていくため、「TOCアカデミー」のプログラムを構築しました。このプログラムによって、TOCを会社で使いたいと思っている人を本気でサポートしたい。それが私たちの想いです。

ゴール・システム・コンサルティング株式会社
代表取締役社長 村上 悟
執行役員副社長 渡辺 薫

講師

ゴール・システム・コンサルティング株式会社

代表取締役

村上 悟

Satoru Murakami



1959年生まれ。83年東京経済大学卒業。大手製造業で経理原価計算を担当、その後日本能率協会に移り、工場改善業務に携わる。97年に(ザ・ゴールの翻訳出版の5年前)TOCの普及事業を立ち上げ、2002年ゴール・システム・コンサルティングを設立。2006年に発表した日立ツール(現・MOLDINO)の事例論文はゴールドラット博士に絶賛され、博士の論文「巨人の肩の上に乗って(2008)」に直接引用された。100社を超えるTOCコンサルティングの実績を評され、東アジアで唯一、TOC-ICOより個人表彰を受ける。「TOC入門」など、著作は11冊を数える。日本TOC推進協議会理事(2005-2016) TOC-ICO認定プラクティショナー(SCL、PJT、Finance、TP)

ゴール・システム・コンサルティング株式会社

執行役員副社長 兼

チーフ・カスタマーサクセス・オフィサー (CCSO)

渡辺 薫

Kaoru Watanabe



1982年上智大学理工学部物理学科卒。京セラ、日本電産、デジタルガレージ、XC等を経て日立製作所入社。2021年3月に日立製作所社会イノベーション事業推進本部エグゼクティブ SIB ストラテジストを退任。2021年7月当社CCSO就任。日立グループ内を中心に5万人にTOCを指導し、500を超える成果事例を生み出す。TOC実践範囲は、オペレーション改革、デジタルトランスフォーメーション、新規事業開発、ビジネスアナリシス、カスタマーサクセス等、多岐に渡る。日立製作所がTOC-ICOからThe TOC Company of the Yearを受賞(2018)。日本TOC推進協議会元理事長(2018-2021) TOC-ICO元理事(2018-2021)

事例紹介

TOWA株式会社 上席執行役員

TOWAレーザーフロント株式会社

代表取締役社長 早坂 昇 様

社内改革プロジェクトの支援を依頼した。部長職以上の人数が少なく、見ている業務範囲も広い環境下で改革を成功させるためには、先を見据えた人材育成と、目の前の業務効率を良くしていく業務改革の両方を一緒にやる必要があり、コンサルタントの力を借りた。プロジェクトに参加した人材が成長し、コンサルティング終了後も自走できるようになった。活動の結果、1人あたりスループットが、活動当初から1.6倍と大きく成長した。

MOLDINO 成田工場(旧社名:日立ツール)

TOCの成功事例企業として世界的にも有名な同社を、GSCは2002年から約10年に渡って支援した。そして2019年より成田工場にて「未来への架け橋プロジェクト」を支援している。本活動ではフローの改善だけでなく、イノベーションを引き起こす改善の連鎖を狙った。まずは生産管理の仕組や設備保全・開発マネジメント手法改善等のフローの改善に始まり、開発と営業が連携した顧客への提案力向上、さらには、工場の原価やフローを見える化する取組等へと活動を発展させ、まさに継続的改善を体現するTOC経営を実践している。

カリキュラム

1日目・2日目は最初を知っておくべき原理原則の話を学びます

1日目	経営のゴールの設定と達成への道筋を理解する 経営の原理原則と、TOCの世界観	<ワーク> TOCの経営視点から 自社の現状を正しく理解し 「何を変えるか？」を考える
2日目	業績とは何か？儲けるとはどういうことか？を知る スループット計算、利益速度を理解するセンス	

3日目・4日目で物理的な制約に着目して会社を良くする具体的な考え方がわかります

3日目	生産環境で制約を徹底的に活用する DBR、SDBR、MTA、DBMの自社環境に合わせた 生産システム設計	<ワーク> TOCや様々な改革手法を 活用し、何を使って 「何に変えるか？」を考える
4日目	プロジェクト環境で制約を徹底的に活用する CCPM+リーン+UROによる、 自社流マーケティング(市場開発)+開発のしくみ設計	

5日目・6日目に物理的な制約を超えた全社改革の進め方について学びます

5日目	TOC思考プロセス～組織変革の全体像を描く～ 制約を徹底活用するためのテクニックの使い方 事例で学ぶ「制約の基本構造+DFMフレーム+TOC思考プロセス」	<ワーク> 改革の道筋とマイルストーン= 「どうやって変えるか？」を 考える
6日目	修了プレゼンテーションとまとめ～さらなる成長に向けて～ デジタル技術を活用した改革(DX)とTOCのミックスコラボ、 受講者プレゼンテーション	

備考	※各カリキュラムの内容について、講義&演習を通じて理解の定着を図ります。 ※6日間のプログラムでのレクチャーに加えて、2回の講師による1on1指導で、TOCを自社で実践するための 基本プランを作成します。 ※作成する成果物は、参加される企業の状況により異なります。 ・これからTOCを実践したい企業…TOCを自社に導入するための初期プラン ・既にTOCを実践中の企業…いま取り組んでいる活動を整理し、より成果を上げるための改革実行プラン	
----	---	--

概要

日時	2025年 5月 8日(木)、6月12日(木)、7月10日(木)、 8月 7日(木)、9月11日(木)、10月9日(木) *6日間 各日13時~17時30分	
開催形式	Zoomを利用したオンラインセミナー形式 ※ファイル共有のためMicrosoft Teamsを使用する予定です。	
受講料	1社3名まで50万円(税込55万円) ※本コースは、アウトプットとして自社へのTOC実践プランを作成するため、複数名での受講を推奨して おります。1名でご参加を希望される場合はご相談ください。	
定員	10社(30名)	
対象	本研修は中規模~大規模な組織の改革をめざす方を対象としています。 プログラムの中で交流し、相互学習しながら進めるため、対象外の方はお断りする場合があります。 【典型的な参加者像】100億円以上の事業に携わる経営企画・生産管理・製造・開発・ITなどの部門で 変革を推進される方(課長以上)	
お申し込み	https://ws.formzu.net/dist/S43502257/	
主催	GS ゴール・システム・コンサルティング株式会社	